

第5回米原市自治基本条例推進委員会 会議録 (つづき)

PRとは別に、それぞれの人に関わっていける仕組みを作って「条例があるからこういったことができるんだ」と感じていただく必要があります。

まさに今の議論がそれで、例えば「多様性の尊重」で、今の地域で一番大切なのは「時代が変わったことで男性と女性の役割がうまく果たせていない状況がある」のであれば、男性と女性の役割や違いを超えて、「どうやってまちづくりができるだろうか」、そして「その仕組みはどうしようか」という議論をこの委員会で提起していてもいいと思います。今おっしゃった人数のことなどガイドラインを決めて、条例などで強制する方法では無く、「こういったことをみんなでやりましょうね」という一種宣言的なものを出して、どの地域でうまくいってるとか、うまくいかないところはどのようにうまくいかないのかチェックすれば、強制では無くてお互い知恵を出し合ってそういう状況を作っていくこともできるんじゃないかと思います。ここでそういった提案をまとめるとしたら、「どうしたら特性を活かした役割分担がうまくできるのか」ということでしょうか。

男女共同参画条例を作るということもあり得ますが、そのまちなじむ状況が整っているのかということを考えなくてははいけません。あえて『男女共同参画』と言わなくても、一步一步進んでいくための仕掛けが他にあると思うんです。そのあたり議論してみてもいいでしょうか。いきなり「条例を作りましょう」というのも重い気がするんですが。実際に条例を作った自治体もあります。「男女共同参画法」という法律ができた時にそれに基づいて条例を作るという流れがあって、滋賀県内でもできましたよね。ただそれがうまく運用されているかっていうと、「作りたい人が作ってしまった」みたいなのがあるところがあってなかなかうまくいってないんです。

委員： 形だけということになりますね。

会長： もったいないです。条例をつくって動かなくては失敗例になってしまいますよ。だったら、蓄積していけるような仕掛けをつくるのもひとつの手だと思います。

委員： 今滋賀県には男女共同参画課がありますよね。米原市には無いですか。

事務局： 人権政策課が所管しています。

会長： 私たちの普通の生活の中で「共同参画」なんて難しい言葉使わないですよ。その辺に抵抗感があります。もうちょっといい言葉が無いんでしょうか。

委員： 意識はしてなくても実際はみんな「共同参画」していますよね。我が家もしています。

委員： 先程もありましたが、難しい言葉が良くない。

会長： 何だか難しい言葉を使ったら、難しいことしなくちゃいけないみたいですよ。

委員： 改めて「男女共同参画」と言われると何をしたらいいのかわからないけど、実際は「男性のいいところは男性に發揮してもらおう」、「女性のいいところは女性が發揮する」、二人で併せて1になれば良しかなって我が家は思っています。お互いにいいところを出して二人でひとつになれば、良いんじゃないという考え方です。米原市全体もそんな考え方で良いですよ。でも今のところ自治会でも男性ばかりで、男性の意見しか出てきてないと思います。

会長： このところ大津市や亀岡市でもこういったことに関わっているんですが、だいたいどこも同じ話があって、女性がたくさん出てきていただいて動いている部分、例えばPTAはたくさんあるんです。先程実動部隊という話がありましたが、実動部隊というのは女性を取り仕切っています。ところがヘッダの部分、全体を動かしていく部分はほとんど男性です。女性はいつも下働きじゃないか、そういうことが女性の中に鬱積している。だけど男性の代わりに女性がやるかっていうとちょっと尻込みしてしまいます。力仕事は男性でという分け方をすると、じゃあ女性はこの辺の役割でいいんじゃないかってことになりかねない。それでもいいんでしょうか。

委員： うちのNPOは公民館を運営しています。職員はほとんどが女性で男性は1人です。「女性でよくこんな事業が出来るな」と言われます。それはフォローしてくれる周りのボランティアさんに男性が多いからです。「女性ばかりでがんばっているのを助けてあげようか」ということで。「何かする」というとパッと集まってくれます。理事は男性ですが、考える企画部門は女性、あとはそんな地域の人が集まってくれています。

委員： 男性の良さ、女性の良さそれぞれを認め合って、協力し合うまさに共同参画ですね。

会長： 世の中には人が苦勞してると助けたくなる人が結構います。「タイガーマスク」の話じゃないけど。行政に人気が無いのはえらそうな顔しちゃうからです。弱みを見せて「助けて！」て言えばみんな「助けようかな」ってことになるんですよ。考えてみると何をやるにもいろんな人の協力が無いと出来ないじゃないですか。そこのところは男性より女性の方がうまく表現できるんでしょうね。「みんなでやりましょうよ」とか「助けて」とか。何かいい「言葉」とか「しかけ」ってありますか。

委員： また同じ話に戻るのですが、私の家では男の役割、女の役割を固定しない。女性が結局は惰性でいろいろやってもらってる部分はあります。しかし役割を固定しないっていうつもりでやっています。すべてを同じレベルで分担している訳ではないんです。

会長： 中国とかロシアに行くと、大型ダンプに女性が平気な顔して運転してます。最近では日本も増えてきましたけど。力って本当は女性の方がすごいんです。赤ちゃんを産む力ってすごいですよね。役割を限定しないとか決めつけないでうまく協力し合える仕組みができないでしょうか。条例ではそういうこともあって、あえて「男女共同参画」を言わなかったんです。逆に言うと、こういうところで少し議論しながら作っていくといいんですが。

委員： タイトルを変えないといけない。

委員： みんながスッと入っていける「仕掛け」。

委員： 今年市で実施されたボトムアップ研修ですが、うちの団体も受入れました。5年目までの職員なのでスムーズに溶け込んできてくれて成功したのだと思います。成果もありました。課長や部長が来てたら、うまくいってなかったと思います。頭の凝り固まった人なんで。その点若い人はまだ地域にあんまり入っていないからこそ地域と一緒にやろうっていう気持ちがあって成功したんだと思います。もっと頭の固い人に研修が必要なんじゃないかと思いました。「協働」も古い感覚じゃなくて、誰にでも自然と入り込んでいけることが必要です。

委員： 行政組織の中で何か新しい風が吹いた雰囲気はあるんですか？

会長： 続けていくことで出来てくるんでしょうね。1回だけで切れてしまうと繋がらないです。

委員： 継続的に実施される研修ですよ。

事務局： 研修のやり方や対象者は変わるかもしれませんが、こういった研修は続けていく予定です。

委員： 課長とか課長補佐は入らないんですか。そこが大事だと思いますが。

委員： この研修の後、個人的に繋がりを持った職員もいます。職員としてではなくいちボランティアとして関わってくれています。気楽に出来るし、地域のこともわかるし、地域とのつながりもできるし、ひとつの成果ですね。

事務局： 今回の発表会は研修内容の発表だけでなく、研修を通じて感じた課題や提案も発表してもらいます。条例の推進検討チームもそうですが、ほかにも横断的なチームがいくつかあります。普段あまり顔を合わさない同年代同士がいろいろ話すことで、みんなが日々いろんなことを思いいろんなことを考えて仕事していることが情報共有出来ています。そこで意見をだすことと、それをうまく提案という形にしていく機会があればもっと職員が活性化していくと思います。

委員： 以前うちの自治会へ出前講座に来てもらった中堅の職員さんは気楽な感じで来てくれました。それこそ肩書が無いので気楽だったんでしょうか。

委員： 今回の研修はいい研修だと思います。一方的な言い方で申し訳ないですが、役所は補助金でも書類で申請、書類で決定です。その上、報告も書類でチェックです。実際現場がどういうことをやっているのか、どういう課題を持っているのか見に来られることはない。今回のことで今後の行政の進め方の良い参考になるんじゃないかと思います。

会長： 違った角度からお聞きしたいんですが、条例を作る時に前文に「信仰」っていう言葉を入れました。真宗がベースになった地域活動が地域に根付いているってことをお聞きしました。そこで男女の役割はいつどのように決まってきたのか、固定化してしまったのか。神道の「けがれ」あるいは江戸時代に伝わった儒教の教えが影響しています。それまで実は男女の固定化した役割は無かったです。ひとつ気になったのは仏教、特に真宗ではそういった教えはありますか。つまり宗教的要素も考えなくてはいけないということです。信じる信じないはありますが、それ以外の社会の仕組みの中ではみんなで協力し合うってことが良い訳ですか、真宗のベースに男女の役割の固定化があ

のでしょうか。江戸時代、さらには明治時代により強固になった男女の社会での役割分担ならそこを変えましょうという呼びかけは出来ると思います。そうであれば「男女共同参画」でなくても「男女協力社会」でもいいわけです。真宗はそのあたりどうですか

委員： 前文に信仰心が厚いってことを入れるにはいろいろ議論がありました。宗教のことですのでこのような形になりましたが、事実、この地域は多く影響を受けています。真宗では昔も今も男女差別はないです。宗教が男女の役割の固定化がきついという印象がありますが、真宗ではそういったことはありません。

会長： この地域は「一人ひとりというよりはもっと大きな信仰の中で生かされている」という思いを地域の人たちが共有しているのであれば、男女の役割分担は無かったんじゃないですか？時代の流れの中で道徳として持ち込まれ固定化されているだけであれば、そろそろやめてもいいんじゃないでしょうか。いわゆる信仰っていう大きなものに抱かれて生きている、そういうところに戻っていいんじゃないか、ということだと思います。昔からここに住んでいる人は納得されると思いますが。

委員： 真宗はいいんです。神道の方が凝り固まっていて、女はけがれているとかお宮さんのことに女性は入れないとか特に高齢の方は言われます。

会長： 男女の役割の固定化の歴史的な背景を少し意識しながら議論していくことで、何か道はあるかもしれないですね。「共同参画」って言葉もきつく感じるので「男女協力社会」みたいな言葉の方がいいですね。

委員： 「参加」ではどうですか？簡単な感じがします。

会長： そういうことなんです、なぜ「協力」にしたかという、家庭の中では「参加」なんてありません。家庭の中では「お父さんとお母さんが仲良く協力しましょう」とってことですが、「参加」になると社会的な話になってしまいますよね。家庭を含めて男女が仲良く力を合わせられるような、家庭から地域へ地域から市全体という繋がりのある言葉になるんじゃないかと思えます。あえて「参加」「参画」って言葉を使わないのも手です。例えば以前私はかなり意識していたので自分の靴は自分で磨いていました。ところがある日奥さんが磨いてくれてたいへん感激しました。そういう役割分担は家庭の中でありませぬ。それと外の世界の役割分担とが繋がってしまっている部分があるので、そういう「地域での男女の役割分担の固定化はもう必要ないですね」といううって行き方もあるように思えます。どうでしょうか。行政が打ち出すのではなくて地域で「男女が共に協力しましょう」というキャンペーンをやって、そのひとつとして自治会の女性役員を増やす動きを推進したり、あえてそこは目標値を定めるとかっていうことでは無くやっていくってのもありうると思います。

委員： 家庭の平和は社会の平和に繋がるってことですね。

会長： ドメスティックバイオレンスや子どもが荒れている問題にしても、もしかしたら家庭が変われば良くなるかもしれないし、高齢者の介護の問題も別に家庭の中でやれってことでは無く、社会が支える部分と家庭が支える部分を両方うまく組み合わせれば、しかもそれに女性だけに負担がかからなくなれば社会はかわりますよね。この議論はすごく大事な議論ですごくいい提案になり得ます。

事務局： 市でも今年から親子の絆プロジェクトを進めていますが、来年度はさらに親子から人と人へ、そして地域へ事業展開していこうとしています。この半年「絆」についていろいろやった中で感じたのですが、「絆」にはいろんな意味があって、良い意味もあれば「束縛」を意味するあまりよくない意味もあります。お互いが協力し合って生きていけばそれは良い意味での絆になり、そうでなければ「束縛」という方向に転んでいくのかなと感じています。それをどう形にするかですが。

会長： まずは条例や制度化をするっていうことでは無いということでもいいですか？そんな感じですよ。行政が号令をかけてやるというよりは、地域でいろんな事例を作って行きましょうっていう運動的な感じで。

委員： 先程のお宮さんの事ですが、各組で今後どうしていけばいいのか意見を出し合って、区長がまとめるってことになりました。

会長： 今まで当たり前だと思っていたことをどうやって協力して続けていこうかっていう議論ができる状態を作っていけるようにしたいですね。

委員： 最近の若い人の考え方は「お金で解決すればいい」って方向です。例えばしめ縄なんかは買えばいい、鏡餅もち米とお金を集めて餅屋に頼めばいいってことになります。でもお年寄りには「伝承だから続けていかななくてはいけない」と言われます。意見が分かれます。

会長： でも現実にはもうできなくなっている訳ですよ。多分高齢の方は「やらなあかん」と思っているんです。でも実際はできない。じゃあどうするのか。ひとつのやり方としてシンボルだけやるっていう方法があります。お餅つきも全部つくのではなくて、みんなで1回やって残りは餅屋に頼んでもいいんじゃないですか。みんなが集まるのが大事なんですからそういうやり方でいいのじゃないかな。しめ縄もお年寄りが子どもたちを集めて教える機会だとすれば、例えばお宮さんの分だけみんなで作ろうとか。若い人の考え方もうまく取り入れるとうまくつながるかもしれません。「伝統は守っていくけれど出来る範囲で守っていくっていいじゃないか」ってみんなが思えばみんなが楽になるし伝統も守れる。そういう知恵がでてくる場が必要ですよ。市内のどこかがしてしまえばいいんじゃないですか。

委員： 旧の近江町でも、年末のしめ縄作りにみんなが集まることで「地域の絆づくり」になっているって言われます。若い人はしめ縄くらい買った方がいいという意見もありますが、伝統文化や絆のことを思えば、出来る人がいるうちはやろうということで、とにかく出てきてやってみようと呼びかけられました。なかなかうまく作れませんがそこでお年寄りも丁寧に教えることで、若い人にも昔の知恵として受け入れられました。「しめ縄を作ることが本当の目的ではなくて、地域の絆を作ることが目的なんだ」「こういうことが無い限り地域の人が顔を合わす機会が無い」と言っておられました。みんなんで賑やかにやる方がいいことで、それが若い人にも伝わったんでしょう。

会長： 生活が変わってきたとき、全部をやるのは苦痛になってきます。地域の持っている景色とか香りを残していくという知恵が必要になってくるんじゃないかな。

委員： どうすれば残していけるかっていうことをみんなんで考えられるといいですよ。

会長： 気持ちのいいイベントにしたいということなんですけど、あまり具体的な話ばかりもしてられません。

委員： 「信仰」はどう解釈すればいいんでしょうか？

会長： この条例を作る時に私はいくつかの繋がりがこの地域の大きな要素を占めていたと聞きました。神社仏閣という中ではこの地域は仏教に特徴があって、一向一揆もしくは一向宗の伝統が大事にされ残っているという解釈でいいと思います。だとすれば男女の役割という点でも協力してみんなが気持ちよく生きられる社会を作っていこうっていう親鸞聖人の教えのとおりでいいんじゃないですかという説明が出来るんじゃないかな。

委員： よく会社でもやるんですが、「どうしていけばいいんだろう」となった時、「どうやればいいか」より「どうなりたいか」に時間をかけて考えて、それに行きつくためには「どういうことをするのか」というのを後で考えます。思いっきり理想像を自分たちの中で固めてしまう。

委員： 「男女共同参画」って言葉を変えたいですね。

会長： そこにとらわれない事ですよ。

委員： 男女共同参画もそうですけど高齢者って言葉も気になります。うちの地域では高齢者や独居老人を招待して何かしたいと言われますが、それは続かないと思います。そういうのではなくて地域内の役割分担が必要なんだと思います。例えば有事の時の役割が決まっていらないんです。誰がどういう役割をするか決めることが、高齢者や独居老人を救うことになるんじゃないかなと思います。高齢者や男女の位置付けをせずに役割分担をする必要があるんじゃないかな。市の理想の中に「女性も意見を出せる場」としての位置付けが欲しいですね。

会長： 結論は簡単に出ないでしょうね。そういった場合は「議論する場を作りましょう」という方向で、興味のある人、いろんな立場にある人に集まってもらって、どうすればうまくいこうかって半年とか1年かけてきちんと議論しましょう。そしてみんなが納得できた方法でやっていこうかっていうことでしょうか。委員会だとちょっと堅いので懇談会ぐらいのものを提案するという手もあります。早急に「こうしましょう」って提案するとかえって熟さない。議論する場所が必要です。

委員： いろんな地区からでてきてもらうといいですね。うちのところはこんなことやっているとか、情報も交換出来ますし。

会長： 基本条例の精神からいくと大きな問題です。一種積み残した問題でもありますので、条例とか仕組みとかってことでもないけれど、きちっと議論する場を作りましょうという提案でどうでしょうか。

委員： これは高齢者がする、これは若い人、これは男、女って役割を固定化せずにやっていくためにはどうすればいいかを議論しましょうってことですよね。

会長： 「多様性をお互い認めていきましょう」この多様性は、役割としての多様性では無くて、思いは性別、ハンデキャップなどお互い違いを認める、でもそれは役割を固定化するために認めるのではなくて、そういった基本的なコンセプトの中で何ができるか議論する場が欲しいってことですよね。

委員： 先程御紹介のあった自治会の委員のうち何人かを女性にするっていうことも、今日ここにきて初めて知りました。良い事例は伊吹山テレビで紹介するといいいんじゃないですか？

委員： 事の出しは、男性も女性にそういう役割を与えようとしないうし、女性もそういう場に出ようとしなかったの、ちょっと荒い手法でしたがそうせざるを得ない状況でした。

委員： それが結果的に良かったんじゃないですか。今も続いていますか。

委員： 続いています。

委員： 今も続いているっていうことをぜひ発表してほしいですね。

委員： 出来たときはいろんなところに発表に行きました。

委員： 合併してからは無いんですよね。

会長： 今までは「こんなことやっている自治会があります」という情報の出し方だったと思うんです。今度は米原市全体の課題として取り上げて、みんなで考えてみると違う局面が見えてきますよね。そういう場を設けているところやしていることを集めて、「これならできそうじゃない？」っていうことを見えるようにしていく場が必要だと思いますよ。

委員： 区長会とかで発表はしたんですか？

委員： 山東町の頃しました。いずれ女性も区長をやらざるを得ない状況になってきます。その時のために女性も字の役員をどんどん経験してもらえるといいと思います。

委員： 広報や伊吹山テレビのほかに区長会でもこういった事例を紹介してもらおうといいと思います。区長さんの意識も変わってきますし。

事務局： 今は区長会の場でそういった情報交換はやれてないと思います。

委員： せっかく情報交換しても、区長さんが末端におろさなかったら意味がないので字で議題に乗せてもらうことが大事ですよね。はじめは反感を買うかもしれませんが。

会長： なかなか区長さんの働き掛けでは出来ない部分があって、周りから「よそではやってるよ。うちでもやらなきゃまずいんじゃない？」って動きがあるといいですよね。そのためには広報やテレビで取り上げていくキャンペーン作戦を市民と協力していくと効果的ですよね。

委員： 県の南へ行くと自治会長が女性っていうケースは多いようですよ。初めは県のモデル地域か何か指定されて始めたようですが。

委員： 米原も指定された地域があるんですよね。他の市の事例なんかも知れるといいですね。

委員： 自治会長ってどんなことをするのかというと、男性でないとならない訳ではないですよね。

会長： 地域の中で何ができるのか、何をやっているのか、行政が情報を集めてみんなで突き合わせて「これだったらできる」としてやるといいでしょうね。今回のまとめとしては男女の役割が固定化されているということがベースですが、今の社会で子どもや高齢者、地域社会の安全の問題など男性と女性が協力し合っていくことで地域が繋がり元気になる、そのための仕組みを考える懇話会を自治基本条例の「多様性の尊重」に則って作ってはどうか？という提案ということでどうでしょうか？行政も情報を集めますし、地域の情報も集まります。

委員： 地域で女性が活躍すると元気になりますから。

会長： 今回は委員会としては1点に集中して提案して、来年度にでも実現を目指していただくということでもいいでしょうか。自治基本条例の多様性の尊重というテーマで議論された「男女共同参画」をもっと少し地域に適した具体的な展開とするための提案ということでどうでしょうか。

事務局： 今日頂いた意見は「わかりやすく」とか「いろんな年代の人が参加できる」とか、すべて繋がっ

ていると思いますのでその点でまとめたいと思います。

会長：次回の日程調整は。

事務局：今回の委員のみなさんの任期が今年8月中ということですので、次回は来年度になってからということになります。その前に今回の提案をまとめさせていただきます。

会長：これはこれでまとまりましたので、次回からさらにその次に進めたいと思います。いくつも並行して進めるのは難しいですから。

委員：是非条例の前文のポスターを自治会に配布していただきたいですね。

事務局：今日頂いた御意見は提案のほかにも参考になるアイデアがたくさんありましたので、職員向けにも

情報提供していきたいと思います。

会長：では次回日程調整は。

事務局：新年度になってから調整させていただきます。

会長：では今日はこれで終わりにしたいと思います。ありがとうございました。